

寧

中

臨

羌

寧中臨羌

寧中。臨羌
寧中、臨羌

望青鳥之來翔

望青鳥之來翔

米田蒼宇書

望 青 鳥 之 來 翔

上部の左右のバランス、そして「王」の位置に注意して書いて下さい。「王」は少し右寄りです。

月の縦部分が外にふくらみかかった状態になっています。向勢的な感じに書いて下さい。

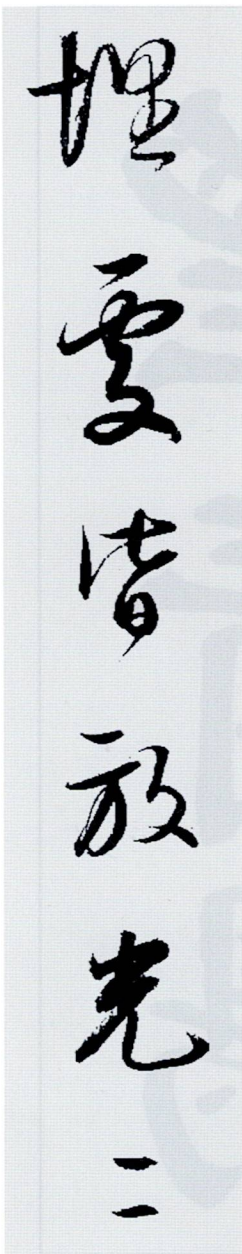
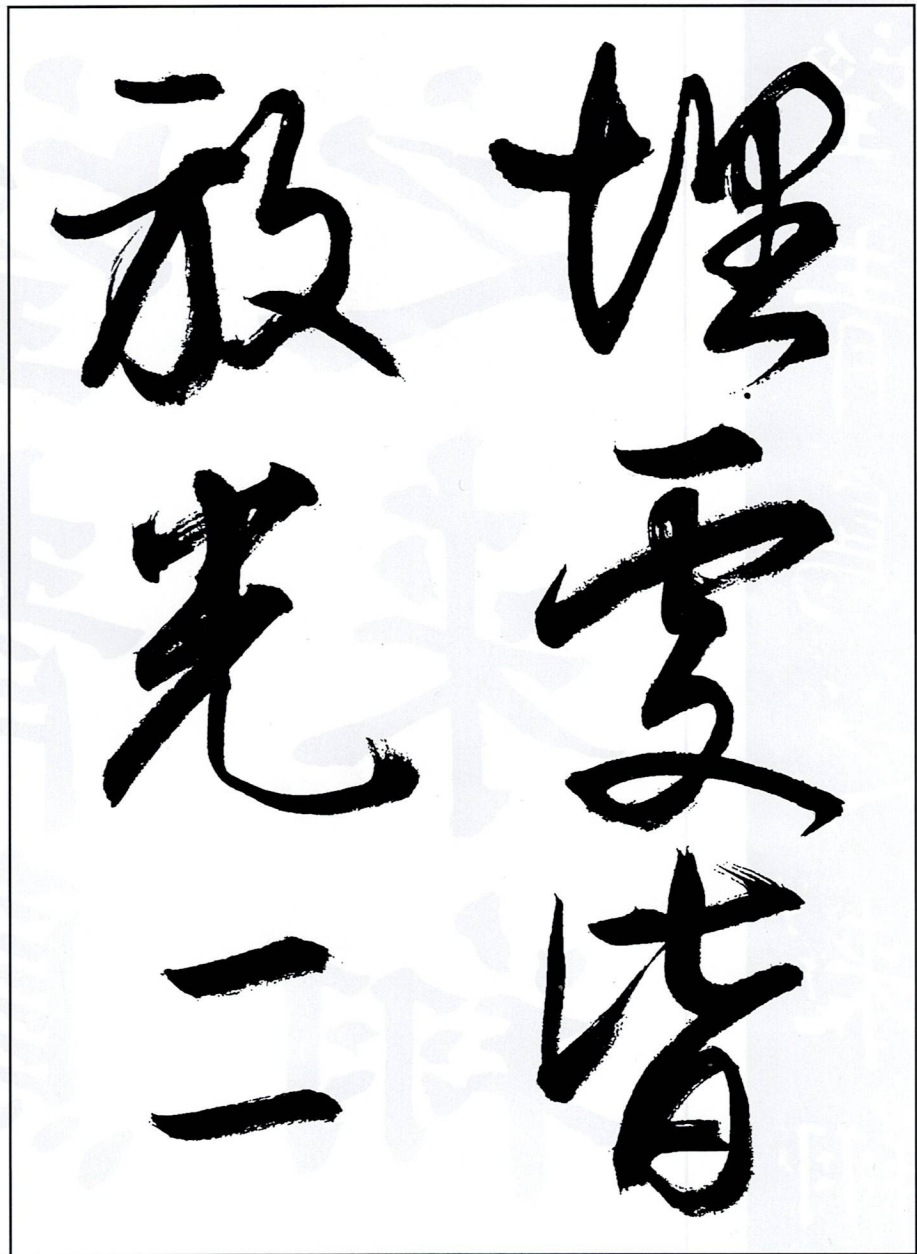
第八画目の転折は行書的に書かれています。この右肩の曲げに注意して下さい。

形をよくご覧になって最終画は延びのある線で書いて下さい。

二画目、三画目はどの線にも接していません。五画目、六画目のびのびと書いて下さい。

一点一画注意深く書かれています。そして送筆の所は引き締った線です。注意して書いて下さい。

この一年間ありがとうございました。
よいお年をお迎え下さい。



埋

扁の三画目から旁の一面目はゆったりと書いて下さい。

処

「処」の異体字です。一画目から二画目の間隔を見て下さい。

皆

連続した連筆。まず短めの横面を書いて二画目の縦面から右へ。

放

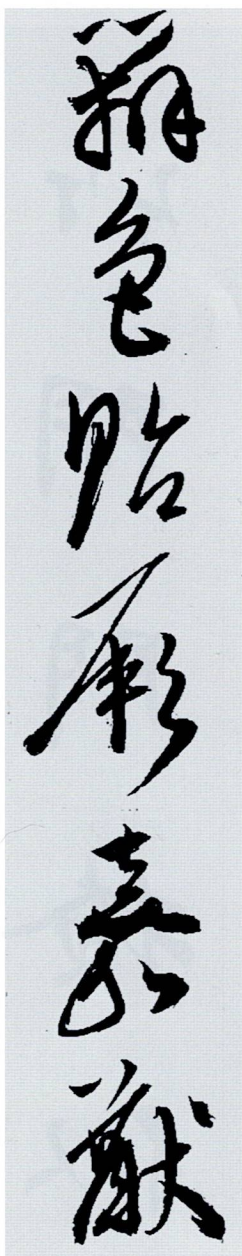
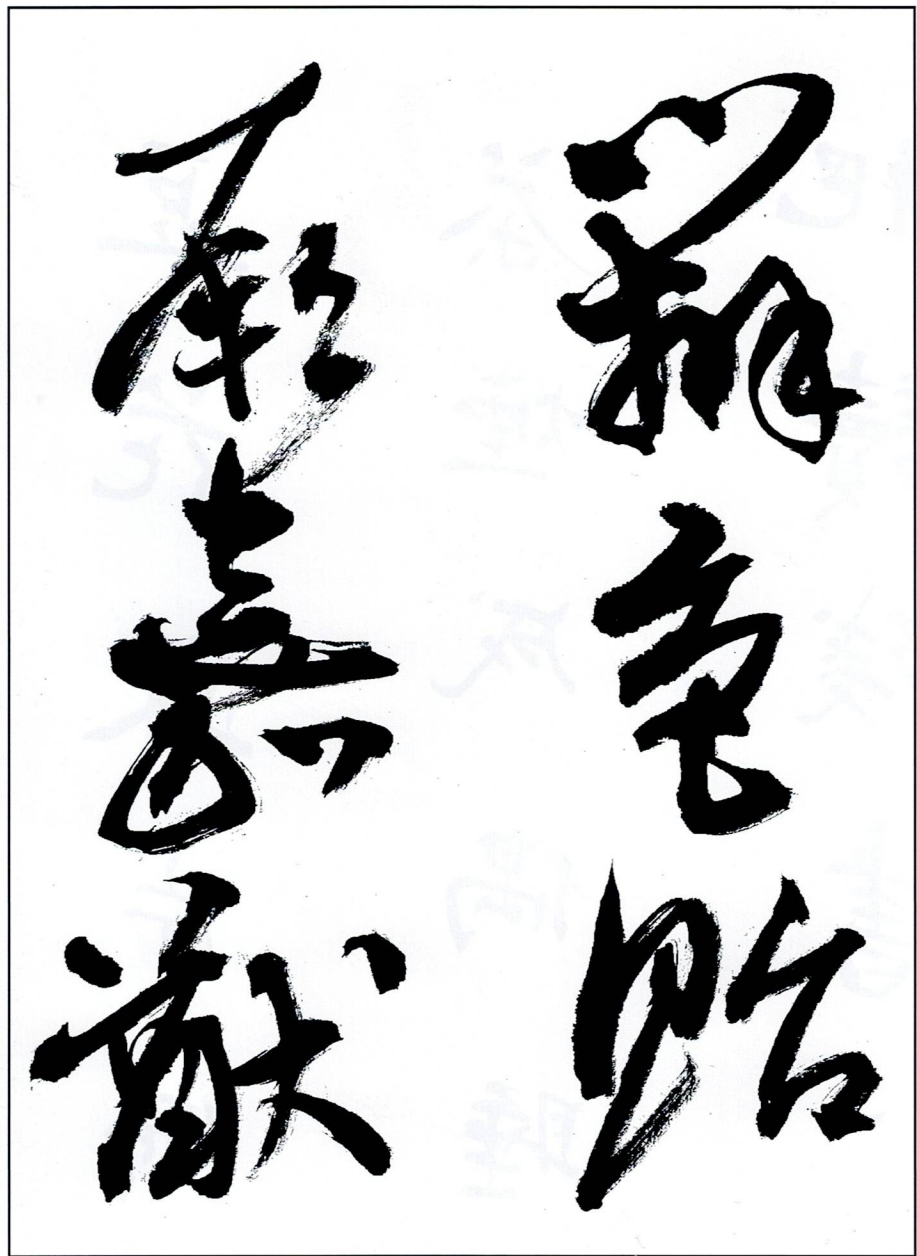
扁はゆったりと。

光

堂々と書いて下さい。

二

画数が少ないので、かえって難しいです。慎重に。



辯

運筆の速度は速いと思いリズムミカルに筆を運びました。下部の三回転はそれぞれ大きさを変えていますのでここでは緩急をつけながらいきましょう。

色

しっかりと筆を立て筆線を明瞭に。所謂切れた線を引くという事です。中の点は最後に打ってください。

貼

貝偏の下部を長く引くのは陳淳の手です。台も長く書くのですが下部は空間を取ることにより菱形様になります。

厥

ピアノ線のような細線ですが決して弱くならない様、筆先に力を集中させてください。

嘉

この造形好きです。ですのでこれを出すことに決めました。少し右下がりの五画目の横画、力の形も真似したいところです。この様な字を使った創作作品を作ってみようかと思えます。

猷

活字ではこれですね↓「猶」。三画目の横画、かなりの右上がりですが私のはまだ足りませんね。まとまりすぎました。最後の反省です。